

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

遺伝医療に関する認識調査から考える予防医療の場における遺伝学的検査の在り方について

2. 研究責任者(当院)

所属：画像内視鏡

氏名：越川みどり

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：千葉大学附属病院

代表名：市川智彦

3. 分担研究者

該当なし

4. 研究対象者

2024 年 8 月 1 日～2024 年 8 月 31 日の間に、聖隷佐倉市民病院健診センターにおいて健康診断または人間ドックを受ける一般市民、および聖隷佐倉市民病院勤務の医療従事者

5. 研究の必要性

遺伝学的検査は、医療分野において診断等の医療行為を目的として行われるものと、ビジネス分野において主に個人の健康増進等を目的として行われるもの大きく分けられ、これらは技術的に同じテクノロジーであるゲノム解析技術を用いながら、利活用される分野によって検査の実施前後に提供されているものに大きな差異がある。具体的には、検査を自己決定するまでの情報提供や結果開示方法、遺伝カウンセリングへのアクセスの確保などである。しかし今後は、医療からビジネスに至る様々な検査が徐々に距離を縮め、健康診断や人間ドックなど予防医療の場を中心として一般市民に身近なものとなっていくことが予測される。こうした動きに関わらず、遺伝学的検査についての情報提供は一般市民にとって十分理解できるものとはなっていないのが現状で、種類の異なる多数の遺伝学的検査が存在する中で、受検者となる一般市民が自分自身で必要としている検査を理解し、選択するのは困難である可能性が高い。また受検者が考える遺伝学的検査については個人差があり、求める情報や体制、サービスも人それぞれであると考えられる。今後、予防医療の場における遺伝学的検査を意義のあるものとしていくためには、実際の遺伝学的検査と受検者の認識のずれやヘルスケアへの利活用の有効性をアセスメントし、検査を提供する側の対応について検討することが必要である。

6. 研究等によって生じる個人への影響と医学上の貢献の予測

研究によって生じる個人への影響は特になし。

医学上の貢献としては、本研究によって、実際の遺伝学的検査と受検者の認識のずれやヘルスケアへの利活用の有効性をアセスメントし、検査を提供する側にどのような対応が必要であるかを考察することで、今後の予防医療の場における遺伝学的検査を有効活用できるような体制づくりにつなげていけると考える。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-485-1155

担当者氏名：越川みどり

対応時間：平日 9:30～17:00

共同研究において専用窓口がある場合

該当なし